

桃物語

伊藤貴晴
作

【登場人物】

女 2
女 1
男 3
男 2
男 1

山の中腹に湖があり、湖畔に森が広がっている。
桃の木がある。高く盛られた土がある。

【1】

夜。男1、登場。リアカーを引いている。リアカーには男2が乗っている。

男1 ここか？
男2 ここだよ
男1 本当か？
男2 多分
男1 多分か
男2 だって分かんないもん
男1 分かんないの？
男2 分かんないよ
男1 どうだろう
男2 そうだと思っけど
男1 湖がある
男2 うん
男1 湖のほとりにこんもり盛られた土
男2 うん
男1 ここだな
男2 ここだね
男1 ここなんだけど
男2 何？
男1 見覚えがある気がする
男2 そうなの？
男1 うん。湖とか、懐かしい感じ
男2 来たことあるの？
男1 いや、そんなことはないと思うけど
男2 じゃあ気のせいだよ
男1 気のせいか
男2 うん

男1 さて、どうしよう
男2 何が？
男1 これからどうしよう
男2 そんなこと僕に聞かないでよ
男1 お前、助手だろ
男2 そうだよ
男1 考えるよ
男2 そういうことは自分で考えてよ
男1 国のない王様の墓か
男2 これがそうだよ
男1 古墳か
男2 古墳だね
男1 古墳だね
男2 古墳って、もっと大きいんじゃないの？
男1 小さい王様だったんじゃない？
男2 小さい王様ってどんなんだよ
男1 これぐらい
男2 そんな王様がいるか？
男1 いたかもしれないよ
男2 まあ、そうだな
男1 で、どうするの？
男2 とりあえず、掘るか
男1 うん
男2 よし、掘れ
男1 え？
男2 何？
男1 僕が掘るの？
男2 そうだよ
男1 何で？
男2 お前、助手だろ？
男1 そうだよ
男2 働けよ

男2 お腹空いた
男1 お前なあ
男2 疲れた
男1 お前、リアカーに乗ってただけだろ
男2 これ、ガタガタして大変なんだよ
男1 歩けよ

男2はリアカーを降りて歩き回り、リアカーに戻る。

男2 お腹空いた
男1 絞め殺したくなるな、お前は
男2 何かない？
男1 ない
男2 ないの？
男1 自分で探せよ
男2 あれ、桃だよな？
男1 ああ、そうだな
男2 食べていいかな？
男1 いいんじゃないか？
男2 おいしいかな？
男1 さあ？
男2 取って
男1 え？
男2 取って。桃
男1 自分で取れよ
男2 届かないもん
男1 降りろよ
男2 無理だよ
男1 面倒臭いな、お前
男1は桃の木に近付く。
女1、登場

女1 触らないで
男2 え？
女1 何してるの？
男1 あ、いや、あの
女1 その木に近付かないで
男1 あ、ごめん
女1 泥棒？
男2 そうだよ
男1 おい
女1 桃泥棒
男1 違うよ
女1 そうじゃない
男1 これは、こいつが
男2 桃取ろうとした
男1 お前が取れって言ったんだろ
女1 あんたが取ろうとしたんでしょ
男2 そうだよ
男1 だからさ
女1 その桃、食べない方がいいよ
男1 食べないよ
女1 食べないの？
男1 食べるよ
男2 ほら、食べるんじゃない
女1 だから食べないって
男1 どうして食べない方がいいの？
女1 どうしてだと思っ？
男1 分かんないよ、そんなの
女1 まずいんじゃないの？
男2 何だっ？
男1 そうやって言えって言われました
女1 言っ？
女1 おいしいんだよ、その桃

男1 そうなのか
 女1 すごくおいしいんだよ
 男2 食べていい？
 女1 ダメ
 男2 どうして？
 女1 どうしても
 男1 まあ、いいよ。食べないから
 女1 食べないの？
 男1 食べないよ
 女1 どうして？
 男1 どうしてって
 女1 ものすごくおいしいんだよ
 男1 自分で食べるなって言ったんだろ
 女1 食べないと後悔するよ
 男1 食べるとどうなるんだよ？
 女1 後悔するよ
 男1 いいよ、もう
 女1 何してるの？
 男1 え？
 男2 桃泥棒
 男1 違う
 女1 こんなところまで人は滅多に来ないのに
 女1 ああ、発掘に来たんだ
 男1 発掘？
 女1 国のない王様の墓を探してる
 男1 何それ？
 女1 何それって言われても
 男1 王様なのに国がないの？
 女1 そうだよ
 男1 それ、王様じゃないよ
 女1 僕もそう思う
 男1 お前は黙ってる
 女1 何でそんなの探してるの？

男1 俺は民俗学者なんだ
 女1 民俗学者って何？
 男1 民俗学っていうのは、文化とか風習とか民間伝承なんかを調べる学問だよ
 男2 あ、そうなんだ
 男1 何でお前は知らないんだよ
 男1 民族ってモンゴ族とかワングラ族とかバントウー系民族とかそういうの
 男2 だと思ってた
 男1 知らねえよ、そんなの
 女1 ああ、民族ってソマリ族とかチエワ族とかネグリロとかそういうのじゃな
 男1 いんだ
 女1 何でそういうの知ってるんだよ
 男1 で、何だっけ？
 女1 何が？
 男1 民俗学
 女1 だから、文化とか風習とか民間伝承とか
 男1 で、民間伝承なの？
 女1 何が？
 男1 国のない王様の墓
 女1 ああ、民間伝承っていうより、おとぎ話かな
 男1 おとぎ話？
 女1 そう、おとぎ話
 男1 でもそれを探すんでしょ？
 女1 実際にあったかどうかを探すのは考古学者の仕事。俺の仕事はどうしてそ
 男1 んな話があったのか調べること
 女1 それ、何か違うの？
 男1 全然違うよ
 女1 全然分かんない
 男1 ま、いいけどさ。何か知ってる？ 国のない王様の話
 女1 国のない王様の話は知らないけど、桃の国の王様の話なら知ってる
 男1 何それ？
 女1 これは桃の国の王様のお墓
 男1 桃の国？
 女1 桃源郷の話って知ってる？

男1 ああ、少しなら
女1 桃源郷、そこにあつたんだよ
男1 嘘だろ
女1 何で嘘つかなきゃいけないの
男1 だって、何でそんなのがここにあるんだよ
女1 そんなの知らないよ
男1 てことは、その王様の国が桃源郷ってこと？
女1 うん
男1 詳しく聞かせてほしい
女1 いいけど、また今度ね。今日はもう遅いから
男1 ああ、分かった
女1 とところで、今日はどうするの？ どつか泊まるどこあるの？
男1 いや、その辺で野宿しようと思ってただけ
女1 ウチに泊めてあげようか？
男1 え？ いや、そんな
女1 何か変なこと考えたでしょ？
男2 うん
男1 考えてない
女1 大丈夫だよ。私の家、広いから。時々、旅の人とか泊めてあげるの
男1 へえ
女1 どうする？
男1 分かった。頼むよ
女1 お金は取るからね
男1 あ、そうなんだ
女1 当たり前でしょ。ちゃんと払いなさいよ
男1 分かったよ
女1 あなた、名前は？
男1 俺は男1って言うんだ。こっちは助手の男2
女2 男2です。よろしく
女1 私は女1。よろしく
ねえ
何？
女1 はここで何してたの？

女1 私はね、この桃の木の世話をしてるの。それから
男1 それから？
女1 多分、あなたを待ってたの

【2】

朝。男2、登場。穴の中を覗き込む。穴の中に男3がいることに気付く。
男1、登場。

男1 どうした？
男2 何かいる
男1 え？
男2 何かいるよ
男1 何が？
男2 分かんない
男1 落ち着け
男2 穴の中
男1 穴の中？
男2 穴の中に何かいる
男1 何が？
男2 分かんない

男1は穴の中を覗き込む。

男1 何かいるな
男2 でしょ
男1 誰だ、これ？
男2 知らない。見たことない
男1 何でこんなところにいるんだ？
男2 死んでる？
男1 死んではないだろう。(穴の中に) おい、ねえ、ちょっと
男2 返事がない。ただの屍のようだ(※1)

男1 息はしてるぞ
 男2 昨日はいなかったよ
 男1 落ちたのかな
 男2 こんなところに落ちる？
 男1 夜中なら暗くてよく見えないし
 男2 落とし穴か
 男1 そういつつもりじゃなかったんだけどな
 男2 男1がはめたんだ
 男1 人聞きの悪いことを言うな
 男2 どうする？
 男1 どうするって……おい、ねえ。起きないな
 男2 埋める？
 男1 何で埋めるんだよ
 男2 穴に入ってるし、丁度いいから
 男1 何が丁度いいんだ？
 男2 埋めようよ。その方がいいよ
 男1 ダメだろ
 男2 絶対埋めた方がいいって
 男1 ちよつと黙ってる。おい、ねえ、ちよつと、起きろよ
 男2 代わって
 男1 ああ
 男2 男2は男3にスコップを投げつける。
 男3 男3は穴から出る。
 男3 質問がある
 男1 ああ
 男3 お前達がここに投げ込んだのは、金のスコップか、それとも銀のスコップか
 男2 金のスコップ
 男3 そうか、金のスコップか
 男2 うん
 男3 お前は嘘つきだな

男2 うん
 男3 で、俺にスコップを投げつけたのは誰だ
 男2 男2は男1を指す。
 男3 お前か
 男1 ちよつと待て
 男3 俺に何の恨みがある
 男1 待て、俺じゃない
 男3 だったら誰だって言うんだ
 男1 こいつだよ
 男2 僕じゃないよ
 男3 違うって言うてるぞ
 男1 こいつは嘘つきなんだよ
 男2 そうだよ
 男3 だからさ
 男1 お前は嘘つきか？
 男2 うん
 男3 正直だぞ、こいつ
 男1 その判断基準はおかしいだろ
 男3 で、どっちがやったんだ。正直に言ったら金のスコップをやる
 男2 僕がやりました
 男3 そうか
 男2 だから金のスコップをください
 男3 よし、こっち来い
 男2 うん
 男3 お前の目を潰す
 男2 やめてよ
 男3 大丈夫だよ、片方だけにするから
 男2 やめて、中指を立てないで
 男3 男3は中指を立てて男2の目を突こうとするが、男2は逃げる。

男2 金のスコップは？
 男3 ねえよ、そんなもん
 男2 騙したな
 男1 騙されるなよ
 男3 邪魔するんじゃないよ、寝てたんだから
 男1 寝てた？
 男3 ああ
 男1 ところで？
 男3 そうだよ。もう起こすなよ
 男3 は穴に入る。
 男2 あ、スコップ返して
 男3 ほら
 男3 は男2にスコップを返し、寝る。
 男2 は男3にスコップを投げつける。
 男3 おい
 男2 何？
 男3 お前、人の話聞いてたか？
 男2 うん
 男3 俺が何て言ったか言ってみろ
 男2 お前、人の話聞いてたか？
 男3 もつと前だ
 男2 正直に言ったら金のスコップをやるう
 男3 もつと後
 男2 金のスコップは？
 男3 埋めるぞ、お前
 男1 何してるの？
 男2 漫才
 男3 漫才じゃねえ
 男1 あんた、そこで何してるの？

男3 寝るんだよ
 男1 そこで？
 男3 ああ
 男1 何で？
 男3 冬眠するんだよ
 男1 冬眠？
 男3 ああ
 男1 いろいろ聞きたいことがあるんだけど
 男3 何だよ
 男2 スコップとシャベルって何が違うの？
 男3 お前は黙ってる
 男1 冬眠って何？
 男3 冬眠は冬眠だよ
 男2 島の民？
 男3 違う。冬に眠る冬眠
 男2 まだ冬じゃないよ
 男3 そのうち冬になるだろ
 男1 何で冬眠するの？
 男3 そんな俺の勝手だろ
 男1 何でそこで寝るの？
 男3 丁度良いからだよ。ジャストフィットだぞ、この穴
 男1 その穴、俺が掘ったんだ
 男3 ああ、ありがとう
 男1 いや、まだ掘るんだけど
 男3 いや、もういいよ
 男1 そこにいられると困るんだけど
 男3 お前が困るかどうかなんて、俺には関係ないだろ
 男1 出てけよ
 男3 俺に命令するな
 男2 この人、変だよ
 男1 お前が言うのもどうかと思うぞ
 女1、登場。

女1 やっほー。やってる？

男1 ああ、いや

女1 あ

男3 やばい、隠れる

男3は穴の中に隠れる。

女1 今、「やばい、隠れる」って言った奴、出て来い

男3 誰もいないよ

女1 いるだろ

間。

女1 三秒以内に出て来ないと射殺する。三、二、一

男3は穴から出る。

男3 すみませんでした

女1 何で隠れたの？

男3 いや、もう反射的に

女1 何で逃げたの？

男3 すみませんでした

女1 謝ったら許されると思ってんの？

男3 思ってます

女1 あ？

男3 思ってます

男1 どうしたの？

女1 こいつ、食い逃げしたの

男2 食い逃げ？

女1 こいう昨日うちに来てさ、お腹空いてるからって、ご飯山のように食べて、いなくなっただよ

男1 ああ、昨日探してたのって、こいつのことだったんだ

男3 ちゃんとお金は払うつもりだったんだよ

女1 だったら何で逃げたの？

男3 出来心だったんだ

男2 仲間だね

男1 え？

男2 食い逃げ

男1 何言ってるんだ、お前

男3 何だ、お前も食い逃げか

男2 そうだよ

男1 違う

女1 それ、本当？

男1 違うよ

女1 そんなことしたらどうなるか分かってる？

男1 あんまり考えたくないな

女1 だったらやめなさい

男1 だからしないって

女1 で、あんたどうするの？

男3 分かったよ。払うよ、こいつが

女1 え？ 俺？

男1 分かった

男1 ちよつと待て、何で俺が？

女1 頼むよ

男3 ダメだって

女1 払いなさいよ、いいでしょ、それぐらい

男1 そんな余裕はない

女1 分かった、じゃあ体で払う

男3 お前の体に興味はない

女1 持てよ、興味を

男3 寄るな破廉恥

女1 破廉恥ってどういう意味だ？

男2 恥を恥とも思わないで平気のこと

男3 何だと

男2 僕が言ったんじゃないよ

女1 男1、あなた仕事手伝わってもらったら？
 男1 え？
 女1 丁度良いんじゃない？
 男3 ああ、じゃあそれでいいや
 男1 勝手に決めるなよ
 男3 お前、何の仕事してるの？
 男1 発掘
 男3 発掘？
 男1 うん
 男3 ああ、それで穴掘ってるのか
 男1 そうだよ
 男3 分かった。じゃあ俺が発掘を手伝うから、飯をおごってくれ
 男2 分かった
 男1 勝手に決めるなよ
 女1 寝るとこはどうするの？
 男3 ここで寝るよ
 女1 了解。じゃあ、ウチの薪割りと水酌みと、ここの穴掘るの手伝ってね
 男3 え？ そっちも手伝うの？
 女1 それぐらい当然でしょ
 男3 分かったよ
 男1 ああ、勝手に決まっちゃった
 男3 俺は男3、よろしくな
 男2 よろしく
 男3 で、お前は何を発掘してるの？
 男1 国のない王様の墓
 男3 何それ？
 男1 何それって言われても
 女1 国がないのに王様っておかしいだろ
 女1 ねえ
 男1 ねえ
 男3 だからこれからそれを調べるんだろ
 男1 国のない王様の墓か。これがそうなのか？
 男1 多分な

男3 俺もよく分かんないんだけどさ
 男1 何？
 男3 これ、多分、俺の墓だよ
 女2 こんばんは
 男1 こんばんは
 女2 食べる？
 男1 え？
 女2 桃
 男1 いや、いい
 女2 そう
 女2 女2は桃を食べる。
 女2 おいしいよ
 男1 その桃、食べちゃダメだって言ってたよ
 女2 私はいいの
 男1 いいの？
 女2 うん、いいの。あなたも食べない？
 男1 いや、いいよ
 女2 いいじゃない、ほら
 男1 いや、でも
 女2 どうして食べないの？
 男1 怒られるからさ
 女2 大丈夫だよ
 男1 あんた、何？
 女2 私？ 何だと思っ？
 男1 え？

【3】

夜。女2がいる。男1、登場。

女2 桃はおいしいんだよ
 男1 それは分かるけどさ
 女2 昔はこの辺りいっぱい桃の木があったんだよ
 男1 そうなんだ
 女2 でもみんななくなっちゃったんだ
 男1 どうして？
 女2 分かんない
 男1 あんた、何？
 女2 さつきも聞いたね
 男1 答えてくれないからさ
 女2 答えなきゃいけない？
 男1 いや、まあ
 女2 困ってる
 男1 ここで何してるの？
 女2 桃を食べてる
 男1 そうなんだけどさ
 女2 困ってるね
 男1 おもしろいか？
 女2 うん、おもしろい
 男1 どこから来たの？
 女2 桃の国
 男1 え？
 女2 私は桃の国から来たの
 男1 え？
 女2 本当だよ
 男1 え、あ、あの
 女2 何驚いてるの？
 男1 え、でも
 女2 信じてないの？
 男1 いや、そういうわけじゃないんだけど
 女2 戸惑ってるね
 男1 からかっているのか？
 女2 からかっている

男1 ……
 女2 あなたは何してるの？
 男1 国のない王様の墓を探してる
 女2 国のない王様？
 男1 うん
 女2 変なの
 男1 変だよ
 女2 国がなかったら王様じゃないよね
 男1 だから変だって言ってるだろ
 女2 これがそうなの？
 男1 ああ
 女2 ここに桃の国の入り口があるんだね
 男1 え？
 女2 知らなかった？
 男1 いや、そう聞いたけど。何で知ってるの？
 女2 私は桃の国から来たんだよ
 男1 あんた、名前は？
 女2 女2。あなたは？
 男1 男1
 女2 ちゃんと見つけてね。入り口はそこにあるから
 男1 桃の国なんて本当にあるのか？
 女2 あるよ
 男1 そうか
 女2 入り口を見つけたら、きっといろんなことを思い出すから
 男1 思い出す？
 女2 私はいろんなことを忘れてるの
 男1 うん
 女2 あなたもいろんなことを忘れてるの
 男1 忘れてるって、何を？
 女2 いろんなこと
 男1 よく分かんない
 女2 私もよく分かんない
 男1 女2だっけ

【4】

女2 うん
 男1 女2は俺のこと知ってるのか？
 女2 多分
 男1 俺はここに来たことあるのか？
 女2 多分
 男1 曖昧だな
 女2 そうだね。ねえ、男1
 男1 何？
 女2 桃の国が見つかったらどうするの？
 男1 どうする？
 女2 うん。どうするの？
 男1 考えてなかったな
 女2 そうなの？
 男1 見つかったから考えるよ
 女2 そうだね
 男1 見つかるかどうか分かんないけどな
 女2 見つかるよ
 男1 入り口が見つかったら、女2はどうするの？
 女2 どうしよう。見つかったから考えるよ
 男1 そうか
 女2 どうしてこの桃がこんなにおいしいか知ってる？
 男1 さあ？
 女2 私はこの木の下に埋まってるの
 男1 え？
 女2 私はね、あなたが来るのをずっと待ってたんだよ

男1と女1がいる。男2は釣りをしている。
 男が山を登っていくと、桃の花がたくさん咲いてるところに出たの。そして地面にぽっかり穴が空いているのを見つけた

男1 その穴に入っていくと桃源郷に辿り着くんדר？
 女1 うん、そう
 男1 その話は知ってる
 女1 有名だからね
 男1 ここがそうなのか？
 女1 そういうことになるんだね
 男1 昨日、変な女に会ったよ
 女1 変な女？
 男1 あ

間。

男2 うん
 男1 桃の国から来たって
 女1 え？
 男1 で、自分はこの木の下に埋まってるんだって
 女1 そう
 男1 何なんだろう？ あの子
 女2？
 女1 知ってるのか？
 男1 うん、知ってる
 女1 どういうことだ？ この木の下に埋まってるって
 男1 そのまんまの意味だよ
 女1 え？ でも、そうだとすると
 男1 男3が穴から顔を出す。

男3 おい、手伝えよ
 男1 ああ、ごめん
 男3 何で俺だけ働いてるんだよ
 女1 文句言うな
 男3 やってるだろ、ちゃんと
 男1 ずいぶん掘ったな

男3 すごいだろ
 男1 何か出てきたか？
 男3 土
 男1 他には？
 男3 石
 女1 何にもないの？
 男3 何にもない
 女1 男3のお墓だったら大した物はなさそうね
 男3 どういう意味だよ
 女1 そのまんまの意味
 男2 あ
 男2 間。
 男2 うん
 男2 男3は男2を叩く。
 男2 痛いよ
 男3 何やってんだ、お前
 男2 釣り
 男3 働け
 男2 僕、力仕事って苦手なんだけど
 男3 助手だろ、お前
 男2 うん
 男3 掘れ
 男2 分かった
 男2 男2は穴からいろいろ掘り出す。
 男1 何これ？
 男2 掘ったよ
 男1 え？

女1 何でこんなのが出てくるの？
 男3 これは世紀の大発見か？
 男1 どうだろう
 女1 ○○○、○○○、○○○。これ、男3の墓だよ
 男3 そうだよ
 女1 王様の墓だったら宝石とかはないの？
 男3 何？ そんなのあるのか？
 男1 いや、あるかどうかは分からないけど
 女1 男3、趣味悪いんじゃないの？
 男3 何でだよ
 女1 だってこれ、あんたが埋めたんでしょ？
 男3 知らねえよ、覚えてないもん
 男1 変だな、これ
 男3 普通、王様の墓って何があるの？
 男1 時代や国にもよるけど、宝石とか装飾品とか、身の回りの物とか
 女1 ああ、普段身につけてたのね、男3が
 男3 嫌だよ、そんなの
 男1 何でこんなものがあるんだ？
 男2 あ、それ僕が埋めた
 男3 お前か
 男1 何やってんだよ
 男2 ダメだった？
 男3 ダメに決まってるだろ
 男2 穴があつたら埋めたくない？
 男3 犬か、お前は
 男2 違うよ
 男3 捨ててこい
 男2 分かった
 男2 男2は掘り出した物を穴の中に入れる。
 男3 戻すな
 男2 ダメなの？

男3 ダメに決まってるだろ
 男2 うー
 男3 犬か、お前は
 男2 違うよ
 男3 もういい、釣りやってろ
 男2 分かった
 男2は釣りをする。
 男3 何であいつが助手なんだ？
 男1 さあ？
 男3 分かんないのかよ
 男1 付き合い長いからな
 男3 あいつ、クビにした方がいいぞ
 男1 考えとく
 女1 で、結局何にも出て来ないの？
 男1 そうだな
 男3 つまんねえな
 男1 桃源郷の入り口は？
 男3 それらしきものはない
 男1 そうか
 男3 ところでさ、そもそも桃源郷って何なの？
 女1 え？ 知らないの？
 男3 知らない
 男1 お前、王様なんだろ？
 男3 だって全然覚えてないんだもん
 男1 覚えてろよ
 女1 痴呆症じゃない？
 男3 痴呆症って何だ？
 男2 ボケだよ
 男3 誰がボケだ
 男2 僕が言ったんじゃないよ
 男1 桃源郷っていうのは、言ってみればユートピアだな

男3 ユートピア？
 男1 そもそも、ユートピアの伝説は世界中にあるんだ
 男3 ユートピアって何？
 男1 理想郷だよ
 男3 理想郷
 女1 どこかに別の世界があるんでしょ？
 男3 別の世界って何だよ
 男1 だからそれが理想郷なんだよ
 男3 へえ
 男1 海に浮かぶ楽園、滅び去った古代遺跡、空に浮かぶ島
 男3 ああ、ラピユタか(※2)
 女1 天国や地獄だって別世界だよ
 男3 天国なんかないだろ、そんなの
 男1 だから伝説だよ
 男3 伝説ねえ
 女1 桃の国のおもしろいところはさ、理想郷が穴の中にあるってところなんだ
 男1 それっておもしろいの？
 女1 普通はもっとスケールが大きいんだよ。天国は空の上にある。海に沈んだ
 男1 ムー大陸やアトランティス。海の底や月にだって理想郷はある
 女1 穴の中はスケールが小さいのか
 男3 小さいね
 女1 巨大な地下帝国が広がってるかもしれないぞ
 男3 あるわけじゃないじゃない、そんなの
 男2 分かんないだろ、そんなの
 男1 あ
 男2 いい加減にしろよ、お前
 男1 ねえ
 男2 ん？
 男1 これ見つけた
 男2は湖から釣り上げたものを渡す。
 女1 首飾りだ

男1 これ、どうしたの？
男2 釣った
男3 どこにあったの？
男2 そこ
男1 湖の中か
女1 これは女2のだね
女2？
男3 昨日の女か
男1 そうだね
女1 昨日の女って何だよ
男3 昨日、会ったんだよ
男1 へえ
女1 男1、返してあげて
男1 え？ ああ
女1 ちゃんと返してあげてね

【5】

夜。男2が湖を見ている。男3が穴から出る。
男3 ただ今から作戦を決行する。目標発見。小石。作戦開始
男3 男3は小便をする。
男3 任務を完了しました
男2 何してるの？
男3 小便
男2 ふーん
男3 お前、何してるの？
男2 あれ何だと思う？
男3 どれ？
男2 あの光ってるの

男3 ああ、光ってるな
男2 何かたくさんあるよ
男3 魚じゃないか？
男2 魚？
男3 魚が跳ねてるんだよ
男2 何で光ってるの？
男3 月の光が当たってるからだろ
男2 何で跳ねてるの？
男3 知らねえよ、そんなこと
男2 楽しいのかな？
男3 楽しいんじゃないか？
男2 たくさんいるね
男3 ああ、たくさんいるな
女2、登場。

女2 こんばんは
男3 こんばんは
女2 何してるの？
男2 魚を見てるんだよ
女2 魚？
男2 いるだろ、その辺
女2 あ、本当だ
男2 たくさんいるよ
女2 綺麗だね
男2 そうだね
女2 あんた誰？
男3 私？
女2 何してるの？
男3 ああ、桃食べに来たの
女2 桃？
男2 桃。食べる？
男3 いや、いい

男2 その桃食べると女1が怒るよ
 女2 私は食べてもいいんだよ
 男2 ふーん
 女2 ねえ、王様
 男3 何？
 女2 やっぱ王様だ
 男3 俺のこと知ってるの？
 女2 何かそんな気がしたんだ
 男3 へえ
 女2 王様、ここで何してるの？
 男3 いや、そろそろ寝ようと思ったんだけど
 女2 それ、王様のお墓でしょ？
 男3 そうだよ
 女2 お墓で寝るの？
 男3 寝心地がいいんだ
 女2 どうしてここにお墓作ったの？
 男3 覚えてないよ
 女2 そうなんだ
 男2 ねえ、男1を待ってるの？
 女2 え？
 男2 違うの？
 男3 ああ、昨日会ったっていうのはあんたか
 女2 うん、そう
 男3 男1、どこ行った？
 男2 見てくる
 女2 いや、いいよ
 男2 いいの？
 女2 うん。待ってるわけじゃないから
 男3 あんた、男1の知り合い？
 女2 あんまり覚えてないんだ
 男3 そうなの？
 女2 うん。昨日会ったけど、思い出せない
 男3 奇遇だな。俺も昔のことは何にも思い出せない

女2 大切な人だった気がするんだ
 男3 そう思うってことは、きつとそうだったんじゃない？
 女2 そうかな？
 男3 だってそうだろう？
 女2 そうだね
 男3 で、これからどうするの？
 女2 どうするって？
 男3 男1と会うんだろ？
 女2 会わない
 男3 え？
 女2 会わないことにする
 男2 いいの？
 女2 うん、いいの。伝言、お願いできるかな？
 男2 何？
 女2 さよならって、伝えてくれる？
 男2 え？
 女2 よろしくね
 女2、退場。
 男2 男3、言ってるね
 男3 え？ 俺が言うの？
 男2 うん
 男3 お前が言えよ
 男2 嫌だよ
 男3 何でだよ
 男2 だってさ
 男1、登場。
 男1 あれ、何してんの？
 男3 やばい、隠れる

男3と男2は隠れる。

男1 待てよ、何で隠れるんだよ

男3 俺は何も知らない

男1 何だよそれ

男3 おやすみ

男1 教えろよ。何があったんだよ

男3 何も無い

男1 何も無いわけないだろ。怪しすぎるぞ

男3 怪しくない

女1、登場。

女1 何騒いでるの？

男1 ああ、女1。こいつら、何か隠してるんだけど

女1 へえ。男3

男3 はい

女1 何を隠してるのか教えて

男3は出て来る。

男3 俺は何にもしてないからな

女1 いいから

男3 お前が昨日会ったっていう女が来て

男1 女2？ 会ったんだ

男3 お前に伝言があるって

男1 伝言？

女1 何て？

男3 さよならって

間。

男3 お前、いつまでも隠れてんじゃねえよ

男3は男2を引つ張り出す。

女1 女2がそう言ったの？

男3 そうだよ

男1 どういうことだ？

男3 フラれたんだよ、お前は

男1 ショックだな、それ

女1 そっか。そんなこと言ったんだ

男3 なあ、あの子って何なの？

男1 女2は桃の国から来たって言ってた

男3 へえ

男3、何か思い出した？

全然

女2は男3の婚約者だったんだよ

男3 え？ そうなの？

女1 うん

男1 聞いてないぞ

女1 だって言ってるじゃないもん

男3 じゃあ俺、結婚する

女1 あんたは短絡的だね

男3 短絡的ってどういう意味だ

男2 バカってことだよ

男3 てめえに言われたくねえよ

男2 僕が言ったんじゃないのに

男1 さよならってことは、桃の国に帰るのかな？

女1 さあ？

男3 ちよっと待って。婚約者だったのに、何で俺は結婚してないの？

女1 フラれたんでしょ

男3 あー、ショックだ

女1 男3は女2を追いかけてきて、私が埋めてあげたの

男3 え？ そうなの？

男2 何で埋めたの？

【6】

女1　そこにお墓を作ったから
男2　ふーん
男3　全然分かん
男1　どうして女2は桃の木の下に埋まつてるんだ？
女1　女2は男1が自分で埋めたんだよ
男1　え？
女1　覚えてる方がよかった？　忘れてる方がよかった？　どっちだと思う？

回想。男3が墓を作っている。女1、登場。

女1　何してるの？
男3　墓を作ってたんだよ
女1　墓？
男3　うん、墓
女1　女2の墓？
男3　違うよ、女2の墓はそっちだろ
女1　じゃあ誰のお墓？
男3　俺の墓
女1　男3の墓？
男3　そうだよ
女1　何でそんなの作ってるの？
男3　埋められるならここがいいなって
女1　女2の隣だから？
男3　ああ
女1　結構感傷的なんだね
男3　感傷的って何だ？
女1　センチメンタルな感じ
男3　分かんぞ
女1　いいんじゃないの
男3　何が？

女1　お墓
男3　入り口も塞いだからな
女1　いいと思うよ
男3　どっちがよかったかな
女1　何が？
男3　この穴、もっと早くに塞ぐつもりだったんだ
女1　どうして？
男3　あんまりいいことないだろ
女1　そうかな？
男3　女2だって、こっちに来なきゃよかったんだ
女1　仕方ないと思うよ
男3　そんなことないよ
女1　男の嫉妬はみつともないよ
男3　そんなんじゃねえよ
女1　いまさらどうにもならないからね
男3　分かってる
女1　男1、どこ行ったのかな？
男3　知らないのか？
女1　私にも分からないの。何があったのか
男3　ああ
女1　恨んでるの？
男3　恨んでないわけじゃない。でも、よく分からない
女1　そう
男3　会ったこともない男で、何があったのかも分からない。どうしようもない
女1　だろ
男3　うん
女1　だから俺は俺ができることをやる
男3　それで穴を塞いでるの？
女1　そういうこと。俺は王様だからな。責任は俺がとる
男3　偉いね
女1　そうか？
男3　私はまだそんな風に気持ちの整理できないよ
女1　でも落ち着いて見えるよ

女1 そういう振りしてるだけ。本当は泣きそうなの
男3 いつでも俺の胸で泣いていいぞ
女1 考えとく

男3 どっちがよかったかな
女1 何が？

男3 女2、これでよかったのかな

女1 何がよかったのかなんて、誰にも分かんないよ

男3 女1はこれでよかった？

女1 よくない

男3 だよな

女1 でも、女2は私の大切な友達だから

男3 ああ

女1 だから泣いてもいいよね

男3 そうだな

間。

男3 分かった

女1 何？

男3 悔しいんだ、俺

女1 何が？

男3 ずっと分かんなかったんだ、自分の気持ち。悔しい

女1 ああ

男3 分かるすすきりするな

女1 そうだね

男3 変なの

女1 男1に文句言つてやろう

男3 ああ、そうしよう

女1 言いたいこと、いっぱいあるんだ

男3 俺の分も言つといてくれ

女1 もう行くの？

男3 行くというか、ここにいるんだけどな

女1 うん

男3 俺が入ったら、埋めてくれ

女1 ねえ

男3 何？

女1 男3は死ぬの？

男3 さあ？ どうなんだろう？

女1 でもお墓なんだよね？

男3 そうだよ

女1 変なの

男3 変だな

女1 私はここにいるからね

男3 ああ

女1 じゃあね

男3 じゃあね

男3は穴に入る。

【7】

夜。男1がいる。女1、登場

女1 何してるの？

男1 待ってる

女1 何を？

男1 あの子

女1 女2？

男1 ああ

女1 もういないんじゃないの

男1 かもな

女1 でも待ってるの？

男1 待ってる

女1 覚えてないんでしょ？

男1 覚えてないよ

女1 でも待ってるの？
男1 会わなきゃいけない気がするんだ
女1 そう

間。

月が綺麗ね

ああ

あの日もこんな風に月が綺麗だった

あの日？

あなたと女2がいなくなった日

教えてくれよ。何があったのか

あんまり話したくないな

頼むよ

私もね、よく分かんないんだ。何があったのか

知ってることだけいい

ただの昔話だよ。昔々、あるところに、若い女がいました。ある日、女は

桃の国から来た女の子と知り合いました。二人はすぐに仲良くなって、楽

しく暮らしていました。しばらくして、旅をしている男がやって来ました。

男は桃の国を探していました。そして、男と女の子はいなくなってしまう

ました。おわり

その旅をしている男っていうのは俺のこと？

そう

どうしていなくなったの？

知らない

女2はそこに倒れてた。湖で溺れたんだと思う。あなたは女2を桃の木の

下に埋めたの。それからいなくなった

女2は自分から湖に入ったのか？

分からない

王様と結婚するはずだったんだろ？

それが嫌だったんじゃない？

どうして？

女1 男1がいたから
男1 え？
女1 王様と結婚すればよかったのにね。私だったらそうするな
男1 女1はずつとここにいるのか？

女1 そうだよ。男1がいなくなつて、桃の国の王様に会つて、桃の木が全部枯

れて、この木だけが残つて、花が咲いて実がなるのをずつと繰り返して、

私はずつとここにいる

うん

私はずつとここにいる、ずつとあなたを待ってた

うん

男1に会つたらいろんなことが分かる気がする。でも覚えてないんだね

ごめん

女2はあなたのこと覚えてた？

いや、はつきりとは覚えてないみたいだった

そうなんだ。みんな忘れちゃうんだね。私は覚えてるのに

え？

私はこんなにもはつきりと覚えてる。時間が経つたら忘れるんだと思つて

たけど、忘れなかった。男1のことも、女2のことも、ずつと忘れなかつ

た。なのにどうしてみんな忘れちゃうの？

女1

私だけ置いてけぼりなの。みんなに忘れられて、私だけここに残った。私

も忘れちゃえばよかった。そうすればよかった。どうしてあなたは忘れち

やつたの？ 記憶ってそんなに簡単に消えるものなの？ だったらどう

して私の記憶は消えないの？

女1 私はここにいるのに、誰もここにいない。ねえ、あなたはどこに行つちや

つたの？

間。

湖の底

え？

湖の底だ

女1 何言ってるの？

男1 思い出した

女1 え？

男1 俺、ここに来たことがある。湖があつて、桃の木があつて、月が出てた

女1 嘘

男1 嘘じゃない。俺は湖の底にいる

女1 どうして？ どうして男1が湖の底にいるの？

男1 分からない。でも、そうだよ

女1 他には？

男1 え？

女1 他には何か思い出した？

男1 いや、それだけ。湖に入って行くことだけ

女1 そう。そうだったんだ

男1 女1？

女1 どこにも行ってなかったんだ。ずっとここにいたんだ

男1 どうしたの？

女1 待っててよかった

男1 え？

女1 私、帰るね

男1 え？ ちょっと待ってよ

女1 それだけ分かれば十分だよ

男1 全然分かんないよ

女1 男3、いるでしょ

男3 いないよ

女1 いるじゃん

男3 男3は穴から出る。

男3 何？

女1 行くよ

男3 どこに？

女1 たまには布団で寝たいでしょ

男3 泊めてくれるの？

女1 今日は朝まで飲むよ

男3 それ、布団いらさないじゃん

男1 お前、聞いてたのか？

男3 何のこと？

男1 とぼけるなよ

男3 こんなところで話してたら嫌でも聞こえるだろ

女1 ほら、早く行くよ

男3 分かった。男2、行くぞ

男2 男2は穴から出る。

男1 何で男2もいるんだよ

男2 おやすみ

男3 よし、飲むぞ

男1 何なんだ、一体

女1 何？

男1 会えるといいね

女1 ああ

男1 おやすみ

女1 おやすみ

男2・男3・女1、退場
女2、登場。

女2 こんばんは

男1 こんばんは

間。

女2 何から話したらいいかな

男1 何でもいよ

女2 みつともないね

男1 何が？
 女2 さよならって言ったのに
 男1 何でそんなこと言ったの？
 女2 ダメだって思ったの
 男1 何が？
 女2 ずっと待ってたのに、何も思い出さなかった
 男1 俺も、何も思い出さなかった
 女2 それって、ダメだよ
 男1 そう？
 女2 そうだよ
 男1 そんなことないよ
 女2 そうかな
 男1 そうだ、これ
 女2 男1は女2に首飾りを渡す。
 男1 どうしたの？ これ
 女2 男2が湖で見つけたんだ
 男1 そう
 女2 これ、女2のなんだろう？
 男1 うん、そう。これは男1がくれた首飾り
 女2 そうなの？
 男1 そうだよ。またひとつ思い出した
 女2 よかった
 男1 忘れてることがたくさんあるけど
 女2 うん
 男1 また思い出せるかな？
 女2 思い出せなくてもいいよ
 男1 いいの？
 女2 多分、大丈夫
 男1 曖昧だね
 女2 曖昧だよ
 男1 ねえ

男1 何が？
 女2 私と一緒に桃の国に行かない？
 男1 ああ、いいよ

【8】

朝。男2・女1がいる。男3、登場。
 男3 あー、気持ち悪い
 女1 どうしたの？
 男3 飲み過ぎだよ。頭痛え
 女1 男3、お酒弱いんだね
 男3 バカ。どれだけ飲んだと思ってるんだよ
 女1 私より飲んでないじゃない
 男3 何で平気なんだ？
 男2 僕、平気だよ
 男3 お前はちよつと飲んですぐ寝ちまっただろうが
 女2 飲み過ぎはよくないよ
 男1 飲みなきやいけないときもあるんだよ
 女3 で、あいつらどこ行ったんだ？
 男3 さあ？
 女1 ちゃんと会えたのか？
 男3 どうだろうね
 女1 何かさっぱりしてるな
 男3 さっぱりしたから
 女1 そうなの？
 男3 私ね、男1にずっと文句言ってるやろうと思ってたの
 女1 ああ、そういうことか
 男3 言いたいこと言ったからすっきりした
 女1 昨日も飲みながら男1の悪口ずっと言ってたもんな
 男3 そうだっけ？
 女1 そうだよ

女1 覚えてない
 男3 絶対嘘だ
 女1 それに、聞きたいことも聞けたしね
 男3 男1がどこにいるかって話？
 女1 ううん。もちろんそれも気になってたけど
 男3 じゃあ何？
 女1 男1が女2を見捨てて行っちゃうなんて、おかしいじゃない
 男3 ああ、そうかな
 女1 そうじゃないって分かったから。ほっとした
 男3 ふーん
 女1 だって、でないと報われないでしょ？
 男3 何が？
 女1 好きな男を二回も取られるって、どう思う？
 男3 え？ 女1ってそうなの？
 女1 内緒ね
 男3 意外
 女1 そう？
 男3 あいつのどこがいいの？
 女1 さあ？
 男3 さあって何だよ
 女1 よく分かんない
 男3 ま、そっだよな
 女1 忘れちゃえば楽なのにね
 男3 返す言葉もない
 女1 いいよ、気にしないで
 男2 ねえ
 女1 何？
 男2 女1っていつからここににいるの？
 女1 ずっと
 男3 ずっと？
 女1 桃を食べるとね、不老不死になるんだよ
 男3 え？
 女1 そういう伝説があるの。だからその桃は食べちゃいけない桃

男2 食べた？
 女1 食べた。おいしかった
 男3 へえ
 女1 だから私はここにいます。今までも、これからも、ずっと
 男3 それって、つらくない？
 女1 つらいよ。でも、誰かが覚えてた方がいいよね
 男3 そうなんだろうな
 女1 男2はどうするの？
 男3 僕？
 女1 男1、いなくなっちゃったからな
 男2 うん
 女1 帰る？
 男2 いや、男1を探すよ
 男3 どこにいるか分かんないぞ
 男2 分かるよ
 女1 どこ？
 男2 そこ
 男2 男2は湖を指す。
 男1は湖に沈んでるんでしょう？
 女1 うん
 男2 探して来る
 男3 え、でも
 女1 女1
 何？
 男1が浮かんできたら、お墓を作ってあげてね。じゃ
 男2は湖に消える。
 男3 行っちゃったな
 女1 うん
 男3 じゃ、俺も行くわ

女1 どこに行くの？
 男3 行くっていうか、冬眠する
 女1 そこで？
 男3 ああ
 女1 まだ冬じゃないよ？
 男3 いいよ。どうせ寝るだけだから
 女1 好きだけ寝なさい。あんたの墓なんだから
 男3 ああ
 女1 冬眠ってことは、春には起きるんでしょ？
 男3 うん。そうだな
 女1 じゃあ春になったら起こしてあげる
 男3 荒っぽい起こし方するなよ
 女1 それは起こしてみないと分からない
 男3 春か。まだ先だな
 女1 春になったら桃の花が咲くよ
 男3 そうだな
 女1 待ってるからね
 男3 また忘れちゃうかもしれないけどな
 女1 それでもいいよ
 男3 じゃあな
 女1 じゃあね

男3は穴に入る。

女1、退場。

男1・女2、登場。

男1と女2は穴に入る。

終わり。

【参考】

・『桃花源記』陶淵明

・『Intolerance あるいは暮林助教授の逆説』川原泉（漫画）

※1 『ドラゴンクエスト』（ゲーム）

※2 『天空の城ラピュタ』（アニメ）